

## とやま未来創生産学官連携推進会議における主な意見

(平成 30 年 3 月 9 日 開催)

- ・ 大学は、研究をするだけでなく、富山の企業が持つ力を活かし、社会に踏み出した取組みをしなければいけないと感じている。
- ・ 4 月から新設する学部も活かし、全学を挙げてプロジェクトに取り組みたい。
- ・ コンソーシアムの設立は大変ありがたい。知事のリーダーシップにも感謝したい。
- ・ コンソーシアムは、富山県の発展という本学の目的に合致しており、一員として富山県の発展に尽くしたい。
- ・ 医薬品については。インターンシップ・実習等での薬事研究所や産業界の協力に感謝したい。
- ・ アルミについて、大学が持つ応用技術を活かしたい。
- ・ プロジェクトが国に採択されることを祈念している。
- ・ 「田舎の学問より京の昼寝」（都会の方が見聞が広まる）というが、これをクリアできるかが重要である。
- ・ 産官学での連携を進めることは、地方にとって大変素晴らしいこと。
- ・ まず「くすり」でスタートすることは良いと考えており、ぜひ成功させてほしい。
- ・ 農業輸出が盛んなオランダでは農学部が 1 大学に集約されている。大学間で教授陣、単位等の連携を促進することが重要。
- ・ 近年の医薬品は、トレンドが変わり、バイオ、ゲノム、中分子等が主流になりつつある。
- ・ コンソーシアムは業界としては大歓迎であり、全力を注いで支援したい。
- ・ バイオ・ゲノムといった分野、良い人材を集積など、業界ではできなことを是非行なってほしい。
- ・ ものづくり団体においては技術人材の確保は課題であり、今回の取組みは富山県への定着を図るために効果があり、地道に取り組む必要がある。
- ・ 若者にとっての魅力が何なのか、という点について考え、常に軌道修正をすることで実効的な取組みになると感じる。
- ・ 人口減、住宅着工件数の伸びも期待できない中、建材産業として危機感を持っている。
- ・ そうした中、コンソーシアムの立ち上げを非常に心強く思っている。

- ・ 地域を牽引できる中核企業の育成を全面的にバックアップいただいて、企業間連携のオープンイノベーション型でのスピード感を持った技術構築を期待している。
- ・ 他の研究所では研究していない、特徴的な研究をすることが重要。
- ・ 産学連携が重要である。本研究所も、研究所長がシオノギ製薬出身、理事がサントリー出身で、私は基礎研究を行なってきた研究者であり、こういった体制でバランスが取れていると思う。
- ・ 人材育成、特に女性が活躍できる研究所であることを意識している。